

△死の町の如き巴里市

併しメーデーは軍隊や警官と争ふ事が目的ではなかつた。資本家に對し又頑迷な官僚政治家に對し生産者の威力を示す事が主であつた。即ち此日二十四時間を労働者が一齊にストライキをした事に依つて巴里市中ほどの位の程度にまで變化したかといふ事が主要問題であつた。左に大阪毎日所載同社巴里特電を掲げる。

近代社會生活に與る一切の機關は朝來全部その運轉を止めたから巴里全市は宛ら「死の町」の如く馬車も自動車も荷馬車も全く隻影を見せず僅に歩行者が其處此處大路小路に細長い列を作るのみである。文明的諸機關の活動はその影を消めて殆ど離れ小島に残された

廢墟が砂漠の中の樓閣に等しい建物を残すのみである此即ち暴計畫は豫め労働組合本部で仔細の注意を以て企てられ同本部から各種労働團體に對し當日の休業を徹底して以て労働の眞の威力と團結の鞏固なる事を示さんとの眞意に出たのである。一方その筋では萬一の事變を慮つて酒場の閉鎖地下鐵道及市街電車の運轉休止を命じたから之が二重の原因となつて一層「死の町」の光景を助長した。尙豫て一大示威運動をグラス、コンコードに於て催さん計畫だつたが政府は一切の示威運動は街路に行列して行ふべき旨を命令した。市中の店舗は自然閉店の姿でホテルさへも客に食事を供せず客は自ら三度の食物に苦心しなければならぬ有様でタヒ辛うじて肉類などを手に入れたからとて電氣もなく瓦斯も無論の事、水道さへ断れて